

## 2025年度 開催概要

※諸般の事情により変更になる場合があります。

## ◆基本コース

## 「情報システム部門人材としての考え方と基礎知識&amp;スキル研修+フォローアップ研修」

## 【主な内容】

情報システム部門の業務・役割・可能性を正しく理解し、高い意識で業務に取り組める人材を育成する研修です。「ビジネスルール(作法)」「業務知識」を基礎から徹底的に学び、基本的スキル・知識の底上げを行います。

日程 : 2025年6月16日(月)~7月11日(金)および 2026年2月20日(金)

参加費 : 会員 660,000円(税込) / 一般 770,000円(税込)

※テキスト代含む ※PCレンタルは希望者のみ別途有償でのご案内

開催形式: 現地集合 or オンラインライブ配信(講義により異なります)

【現地開催の場合】 一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会

(アクセス: 東銀座駅徒歩3分、築地駅徒歩4分、新富町駅徒歩6分)

【オンラインライブ配信の場合】 Zoom ミーティング

## ◆実機演習コース

## 「情報システム導入の実機演習」

## 【主な内容】

基本コースで学ぶ企画~導入での疑似体験研修修の内容を用いて、実践的なプログラミングを行い、体系的な理解を深めるアドバンスコースです。

日程 : 2025年7月14日(月)~8月8日(金)

参加費 : 会員 462,000円(税込) / 一般 528,000円(税込)

※テキスト代、PCレンタル代含む

会場 : 船橋情報ビジネス専門学校 (現地開催のみ)

(アクセス: JR 船橋駅徒歩4分、京成船橋駅徒歩7分)

## 本プログラムの目的

情報システム部門の業務・役割・可能性を正しく理解し、高い意識で業務に取り組める人材を育成する研修です。「ビジネスルール(作法)」「業務知識」を基礎から徹底的に学び、基本的スキル・知識の底上げを行います。これまでのべ85社 500名以上が受講。新入社員必須の研修プログラムです。

## 本プログラムの特長

- ▶ 「ITの最新動向」「情報システムの体系的な作業プロセス」について、豊富なチーム演習と講義を通して、現場リスクや要点、勘所を支える知識を習得。
- ▶ JUAS セミナー人気講師、現役 IT 部門長等、JUAS 独自の講師陣で構成。自らのロールモデルやキャリアイメージを描く機会が多数。
- ▶ 今後のキャリアに生きる「異業同種」の同期ネットワークを構築。

## ■2024年度 ご参加企業 19社 62名(新入社員58名、2年目社員・配転者4名)

株式会社IHI・味の素株式会社・伊藤忠サイバー&インテリジェンス株式会社・伊藤忠商事株式会社・伊藤忠食品株式会社・株式会社荏原製作所・ENEOS 株式会社・ENEOS システムズ株式会社・キヤノンマーケティングジャパン株式会社・空港施設株式会社・ジューピターショップチャンネル株式会社・積水化学工業株式会社・株式会社セブン銀行・全国農業協同組合連合会・DIC 株式会社・日本ハム株式会社・ブリヂストン株式会社・株式会社バルシステム24ホールディングス・株式会社ローソン(企業名五十音)

## 対象

学卒採用および  
異動に伴う、情報  
システム部門新規  
配属の若手社員

基本コース「情報システム部門人材としての考え方と基礎知識」カリキュラム (予定)

日数	科目名称	概要/キーワード
1	開講式/オリエンテーション プレゼンテーション基礎	IT部門人材としての心構え・考え方、本研修プログラムの全体概要と修得知識・スキル プレゼンテーションの基本スキル
2	IT部門のコミュニケーションスキル	ロジカルなコミュニケーションの基本スキル、プロジェクトファシリテーターの役割と演習、効果的な会議運営ルール
3	文章化作法	仕様書、提案書を作成するうえでの、相手に伝わる文章を書くための日本語の基礎と考え方の基本
4	情報システムセキュリティ	情報セキュリティ原則(機密性、完全性、可用性)、リスクマネジメント、情報ライフサイクル、発注者側責任(C&A)、SLDC/SLC、情報セキュリティマネジメント効果
5	情報システム概論 ～情報システムの過去・現在・将来	情報システムの構成要素、企業における情報システム、情報システムの歴史・現状と将来展望、IT部門に求められるミッション、今後IT部門に求められる資質・取組み
6	プロジェクトマネジメント①	PMBOK®ガイド概論(5つのプロセス群と10の知識エリア)、プロジェクトを取り巻く環境(ポートフォリオ、PMO)、演習から学ぶプロジェクト憲章、WBS、クリティカルパス、ステークホルダーマネジメント、リスクマネジメント、進捗・変更管理
7	プロジェクトマネジメント②	ITシステム企画・開発でのプロジェクトマネジメントの理論と実践、模擬プロジェクト体験、プロジェクトに必要なヒューマンスキル(コミュニケーション、コンフリクトマネジメント、チームビルディング)
8	アジャイル基礎①	アジャイルとは、ウォーターフォールとアジャイルの違い、Scrumとは、アジャイル立上げプロセス
9	アジャイル基礎②	インセプションデッキ、業務へのプラクティス導入、ワークショップ、アジャイル変革における成功のポイント
10	IT基礎	パソコン分解実習、VBScriptによるプログラミングの体験、ネットワークコマンド、PostgreSQL、SQL体験、コマンドプロンプト・コントロールパネル・タスクマネージャを使ったOS実習、2進数実習
11	設計基礎	システムの開発工程、アルゴリズム入門、フローチャート、機能設計、CRUD、コード設計、コード仕様書、データ設計、画面遷移図、画面レイアウト
12	情報化プロセス体験研修①	ビジネス分析/環境分析/ビジネスの整理/ビジネスプロセスモデル作成
13	情報化プロセス体験研修②	ビジネスアナリシス/新業務フロー作成/DFD作成と要件整理 /トレーサビリティマトリクス作成
14	情報化プロセス体験研修③	投資計画書作成/プロジェクト管理/プロジェクト立上げ/プロジェクトマネジメント憲章/ プロジェクト計画作成
15	情報化プロセス体験研修④	システム要件定義・要件定義書作成(要求リスト/モデリング/求確定機能、非機能要件整理/システム規模見積) プロポーザルと外注選定/RFP作成/プロポーザル評価作成
16	情報化プロセス体験研修⑤	システム設計/基本設計書作成/システムのテスト検証(システム、ユーザーテスト計画、システム稼働判定と手続き)
17	情報化プロセス体験研修⑥	プロジェクト完了報告
18	システム運用	ITサービスとしてのシステム運用の価値、システム運用業務・プロセス
19	振り返り・プレゼンテーション準備	振り返り、プレゼンテーション準備
20	プレゼンテーション/開講式	アクションプランの個人プレゼンテーション
21	(6ヶ月後) フォローアップ研修	アクションプランの進捗報告、キャリアプランの報告、グループディスカッション

※内容・カリキュラムの順序は変更する場合がございます

実機演習コース「情報システム導入の実機演習」カリキュラム (予定)

日数	科目名称	概要/キーワード
1	アルゴリズム入門	アルゴリズム概要、流れ図の基礎
2	プログラミングⅠ ① (Java言語 制御文法編)	Javaの基本構文、変数とデータ型
3	プログラミングⅠ ② (Java言語 制御文法編)	基本構造、メソッド
4	プログラミングⅡ ① (Java言語 オブジェクト指向編)	オブジェクトとクラス
5	プログラミングⅡ ② (Java言語 オブジェクト指向編)	継承、例外
6	アプリケーション開発要素①	HTML入門
7	アプリケーション開発要素②	SQL入門
8	プログラミングⅢ ① (Webアプリケーション入門)	Webアプリケーション、Webサーバ、Javaサーブレット
9	プログラミングⅢ ② (Webアプリケーション入門)	JSP、セッショントラッキング、データベース連携
10	IS導入入門 ① (システム開発技術)	プロジェクト計画、システム要件定義、システム方式設計、ユーザー受け入れテスト計画
11	IS導入入門 ② (システム開発技術)	ソフトウェア要件定義、ソフトウェア方式設計
12	IS導入入門 ③ (システム開発技術)	ソフトウェア詳細設計
13	IS導入入門 ④ (システム開発技術)	コーディング
14	IS導入入門 ⑤ (システム開発技術)	コーディング
15	IS導入入門 ⑥ (システム開発技術)	コーディング
16	IS導入入門 ⑦ (システム開発技術)	コーディング
17	IS導入入門 ⑧ (システム開発技術)	コーディング、ユーザー受け入れテスト
18	IS導入入門 ⑨ (システム開発技術)	コーディング、ユーザー受け入れテスト
19	IS導入入門 ⑩ (システム開発技術)	製作システムの最終チームプレゼンテーション

※内容は変更する場合がございます

参加者の声

- ◆ 研修前は、ITの知識がほとんどなく、苦手意識さえもっていました。しかし、一か月間の学びで、もっと勉強したいと思うレベルになりました。講師の皆様のお話もわかりやすく、また、社会人として必要な心構えも教えていただくことができ、IT部門の人間としても、社会人としても成長できました。
- ◆ 開発の上流工程だけでなく、ベンダーの方々がどのようなプログラミングを作っているのか、テストや運営はどういったことを考えているのか、各工程の連携はどうなっているのかということを理解することができたのは大きな財産であると感じている。
- ◆ 積極的にコミュニケーションを取ることや、グループワークにおいて必要となるスキルを多く身につけることができました。自然と役割分担をして効率的に進めることや、都度現状とゴールを確認する習慣が身につきました。
- ◆ <実機演習参加者> 同じシステム案を基に開発していても成果物が大きく異なり、人の考えや思いがそのシステムに反映されることをよく理解できた。それと同時に、今回の実機演習で感じた苦悩や経験が今後の業務に役立っていくことをイメージできた。
- ◆ <実機演習参加者> 基本コースで何気なく掲げていた機能を一つ一つ実装する事の大変さを身をもって体験した。業務に戻った際に、ベンダー側に無理難題を押し付けず折り合いをつけた意見や提案をできる人材になる為にも、とても良い理解になりました。



◆お問合せ◆ [shinjin@juas.or.jp](mailto:shinjin@juas.or.jp)

(担当:橋本・鈴木・菊地・酒井)

お気軽にお問合せください。

<https://juaseminar.jp/pages/shinjin>